

# 読書チャートに用いる繁体字中国語の読材料の選出

O 黄柏翰

柿澤敏文

(筑波大学大学院人間総合科学研究科)

(筑波大学人間系)

KEY WORDS : 臨界文字サイズ 繁体字中国語 視距離

## I. 問題と目的

弱視者に最適な文字サイズを把握するための臨界文字サイズを測定する読材料が開発され、用いられている。一方、台湾で常用されている繁体字については、日本のMNREAD-J (小田, 2002) のような臨界文字サイズを測定する読材料がない。読書速度測定用の国際標準読材料は IReST 中国語のみであり (Trauzettel-Klosin-ski, Dietz, & IReST Study Group, 2012)、文章の難易度や文字サイズは種類が限られている。そこで、本研究は、文章の難易度や、文字サイズなど、読書速度に影響する要因を考慮した臨界文字サイズを測定する繁体字中国語の読材料を選出することを目的とした。IReST 中国語、台湾の拡大教科書 (以下、教科書)、児童生徒向き新聞 (以下、新聞) という 3 種類の読材料で作成した読書チャートの妥当性と信頼性を検討した。本研究は筑波大学人間系研究倫理委員会の承認 (筑 28-102) を得て行った。

## II. 方法

### (1) 妥当性の検討

①対象者：台湾小学校に勤務している教師 5 人を対象者とした。事前に研究内容について説明し、参加の同意を得た者のみを対象者とした。

②手続き：IReST 中国語が小学校 5 年レベルの難しさで作成されていることから、教科書と新聞も同じレベルの文章を用いた。台湾の小学校 5 年拡大教科書 13 篇と、2016 年 8 月に児童生徒向きの新聞に掲載された文章 15 篇について、いずれも小学校 5 年レベルの文章 5 篇を選択するように対象者に依頼した。選択した教科書と新聞の文章から、IReST 中国語と同じ 153 文字の読書チャートを作成した。教科書と新聞の文章はいずれも Word を用いて 1 行 8 文字、1 ページ 4 行、1 チャート 4 ページで表示する読書チャートとした。作成した読書チャート 10 篇を対象者 5 人に再度確認してもらい、本実験信頼性の検討において使用した。

### (2) 信頼性の検討

3 種類の読書チャートについて、同じ内容で異なる文字サイズ、また、同じ文字サイズで異なる内容のチャートについて、音読する際の読書時間を検定した。

①対象者：筑波大学に在籍している台湾人留学生晴眼者 10 名を対象として実験を行った。事前に研究内容について説明し、参加の同意を得た者のみを対象者とした。

②提示刺激：IReST 中国語 10 篇、教科書の 5 篇と、新聞 5 篇について、いずれも 8M から 0.4M まで (8M, 6.3M, 5M, 4M, 3.2M, 2.5M, 2M, 1.6M, 1.3M, 1.0M, 0.8M, 0.6M, 0.5M, 0.4M) の文字サイズ総計 280 種の読書チャートを作成した。

③測定項目と手続き：対象者は、顎台に顔面を固定して標準視距離 40cm を保ちながら、1 つひとつの読書チャートをできるだけ速く、かつ正確に声を出して読むように指示し、その読書時間を計測した。

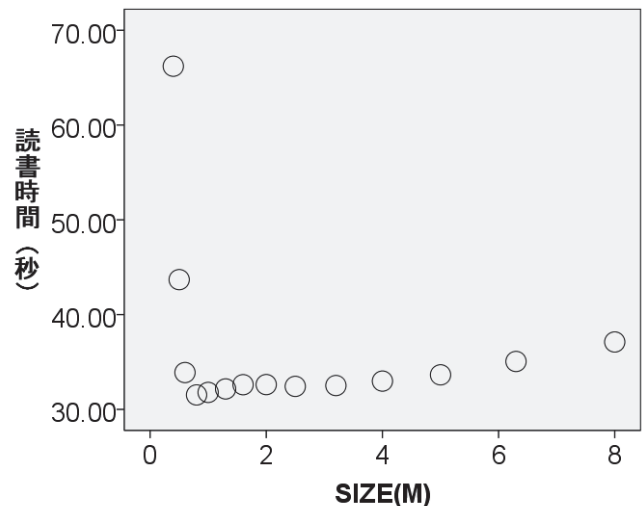


Fig. 1 文字サイズごとの読書時間

## III. 結果

### 1) 文字サイズによる比較

文字サイズごとの読書時間の平均値を Fig. 1 に示した。文字サイズによる一元配置分散分析の結果、有意差が認められた ( $F(13, 126)=25.389, p<0.01$ )。多重比較の結果、文字サイズ 0.4M と 0.5M に対する読書時間について、他の文字サイズの読書時間との間に、いずれも有意差があった。その他の文字サイズ間では有意差は認められなかった。そこで、読書チャートは文字サイズの 0.4M と 0.5M を除いてを作成した。

### 2) 読書チャート間の比較

上述のとおり、0.4M と 0.5M を除き、0.6M から 8M までのチャートごとの読書時間について分散分析を行った。その結果、チャート間で読書時間の平均値に有意な差異のある傾向が認められた ( $F(19, 180)=1.571, 0.05<p<0.1$ )。多重比較の結果、チャート 4 番 (IReST) と 6 番 (IReST)、チャート 4 番と 11 番 (台湾の拡大教科書) との間に 5% 水準で有意差が認められた。そこで、チャートの 4 番、6 番、11 番は除くこととした。この手続きより、IReST はの 8 篇、台湾の拡大教科書 4 篇、児童生徒向きの新聞 5 篇の繁体字中国語の読材料を選出し、読書チャートとして用いることとなった。

## IV. 文献

小田浩一 (2002) MNREAD-J チャートマニュアル. はんだや.  
Trauzettel-Klosinski, S., Dietz, K., & IReST Study Group (2012) Standardized assessment of reading performance: the New International Reading Speed Texts IReST. *Investigative Ophthalmology & Visual Science*, 53(9), 52-61.

(HUANG Pohan, KAKIZAWA Toshibumi)